

2021年度 事業計画書(案)

(自2021年4月1日 至2022年3月31日)

1】事業方針

昨年度からの新型コロナ感染拡大のもと、活動に制限を受けて来たが、コロナ禍の中で培ってきた各種の対応策を通じて厳しい状況の中、新しい方向を目指した事業を推進する。

- (1) ウェルネスの意味する健全な発達、健康、体力の保持を目的に引き続き「楽しく、健康なスポーツウェルネス吹矢」の普及活動に努める。
コロナ禍の中で推進したオンライン競技大会(お家で吹矢等)を通じて、参加し易い競技手法や級位・段位認定試験の審査方法の確立等、新しい事業を目指して活動する。
- (2) 持続可能な組織作りを目的に、次世代人材の育成と新しい体制について中・長期計画に折り込み、将来方向を確立する。
- (3) 国際団体の設立に向け海外支部の充実を図るとともに、引き続き国際規定等の整備を進める。
- (4) 協会本部とブロック・県協会・市協会・地域支部等との業務分担を見直し、活動し易い組織作りを進める。
- (5) (公財)日本スポーツ協会への準加盟(2021年6月付)が内定、正式加盟に向け更に体制の整備と共に公益活動を促進する。
- (6) 競技スポーツ、高齢者・障がいのある方への健康スポーツ提供の基盤となるコミュニティ作りを意図した支部の拡充を図る。
- (7) コロナ禍により遅延している国体デモンストレーションスポーツ、ねんりんピック、ワールドマスターズゲームズ、全国レクリエーション大会等への参加により知名度を高め、更なる普及に努める。
- (8) 新型コロナ感染防止チェックリスト等の徹底により練習・競技会での感染をゼロとして安全性の評価を高める。
- (9) 公認用具について認定企業の開拓を引き続き進める。

2】事業内容

(1) 重点施策

事業方針に基づき本年度の施策を以下の通りとする。

1≫スポーツウェルネス吹矢の普及・振興

1> 会員数の拡大

- ① 本年度の新規入会者の目標数は、2,700名とする(前年予測比150%)。

※前年度予測:1,800名(目標:5,000名、達成率36%)

- ②支部における非会員への加入促進
- ③退会者の実態把握と対応策による退会率の低減
- ④「大学スポーツウエルネス吹矢推進委員会」を中心に学生スポーツ活動への導入を促進(第4回関西学生対校選手権大会の開催他)
- ⑤団体会員制度を活用した新規事業の促進(かんぽの宿 etc.)

2>地域支部の設立拡大

本年度の地域支部設立目標数を90支部とする(前年予測比150%)。

- ・地域支部未設置の市区町村への開設を目標に促進

※前年度予測:60支部(目標:100支部、達成率:60%)

3>特別支援地域の選定と支援促進

国体及びねんりんピック、ワールドマスターズゲームズ開催県等を対象に情報交換を進め、普及対策を実施する。

(1)特別支援地域の設定と重点支援

- ①国体デモスポ・全国障害者スポーツ大会(オープン競技)開催県支援
:三重県((デモスポ:10.9~10、障害者大会:10.24))
:栃木県(2022):鹿児島県(2023)
- ②ねんりんピック開催県支援:岐阜県(11.1)、神奈川県(2022)
- ③ワールドマスターズゲームズ2021開催県:和歌山県(2022.5)
- ④全国レクリエーション大会開催県:福島県(9.18)

(2)被災地・被災会員への支援継続

4>協会本部と地域協会との連携体制の促進

(1)全国ブロック長会議の定例開催

地域協会活動の活性化、普及の強化を目的に定例開催する。

理事会、社員総会での決定事項及び本部の活動方針を共有すると共に各地域における要望・課題の共有と情報交換を目的に年3回開催する。

(2)ブロック内への組織整備

協会本部と同一のブロック組織整備を促進し、本部事業と連携出来る体制の完結を目指す。

(3)地域協会における財源確保

資格認定試験・資格維持講習会等の費用分担を見直し、県協会における財源確保について策定する。

5>会員の技能向上と指導員の育成

会員の技術レベル向上と、指導者育成につなげるために、段・級位認定者の目標を以下の通りとする。

■級位認定者 :.....5,100名

- 段位認定者 :.....4, 750 名
- ジュニア級段位認定者 :..... 200 名
- 合 計 10, 050名(前年度予測比:165%)
- ※前年度予測:6, 100名(目標:15, 000名)

6>(公財)日本スポーツ協会への正式加盟に向けた公益活動の推進

(公財)日本スポーツ協会への準加盟が6月付けで承認される事が内定、今後の正式加盟に向け体制の整備を進めるとともに、公益活動の促進について見直す。

一方で加盟を想定した大会運営のあり方を検討する。

7>用具に関する新規認定企業の開拓

用具の種類と会員要望を整理の上、種類別の専門企業を開拓する。

8>各種委員会の見直し

次世代への継承を意識し、目的を明確にした委員会体制を整備する。

2>>大会及び競技会の開催

新型コロナ感染状況に応じ臨機応変に対応する。

1>第2回全日本スポーツウエルネス吹矢団体選手権大会

4月開催予定→延期(感染防止及び会場確保困難の為)

2>第1回スポーツウエルネス吹矢国際オープンテレ大会

開催日 : 5月(海外支部を含め実施)

会 場 : 各支部練習会場(テレ大会実施要領による開催が可能な支部)

3>第12回全国スポーツウエルネス吹矢ジュニア大会

開催日 : 2021年8月7日(土)

会 場 : 足立区立千寿本町小学校体育館*予定

4>第13回全国障がい者スポーツウエルネス吹矢大会

開催日 : 2021年9月16日(木)

会 場 : 東京都・港区スポーツセンター

5>第9回全日本スポーツウエルネス吹矢選手権大会

開催日 : 2021年11月29日

会 場 : 東京都・墨田区「墨田区総合体育館」

(新型コロナ感染状況によりテレ大会も考慮)

6>第14回スポーツウエルネス吹矢青柳杯大会

開催日 : 2021年11月→(4月予定の延期:日程未定)

会 場 : 東京都・墨田区「墨田区総合体育館」

7>第2回全国スポーツウエルネス吹矢オープン大会→(中止)

(2>第1回スポーツウエルネス吹矢国際オープンテレ大会に置換して開催)

3≫公認指導員・上級公認指導員の認定及び養成

1>公認指導員資格認定試験

- ①公認指導員資格認定試験を6月と11月の年2回全国で開催、認定数350名を目標とする。(前年度実績比110%)
- ②公認指導員・上級公認指導員認定試験の同時開催を可として利便性を図る。

2>上級公認指導員資格認定試験

上級公認指導員資格認定試験を6月と11月の年2回、全国で開催する。
認定数は100名を目標とする。(前年度実績比110%)

3>公認指導員・上級公認指導員教育

レベルの維持、向上のために資格認定試験及び更新講習会を県協会にて実施する。また資格更新講習会受講の徹底とともに、受講後の更新手続きの容易化を進める。

4>ライセンス制度の継続実施(認定試験:8月、3月)

4≫各部事業計画

1>組織部

1)活動方針

重点施策である普及・振興施策の立案と推進

2)活動内容

- (1)全国ブロック長会議の計画と実施
- (2)会員拡大策の具体化と促進
 - ①ブロック長会議を通じた普及拡大策の立案
 - ②地域支部の設立策の計画と促進
 - ③特別支援地域への施策実施
- (3)普及活動の見直し
 - ①新規入会の拡大及び退会者の削減策の立案と推進
 - ・褒賞制度等の導入を含めた普及活動策等
 - ②体験会等の支援体制の整備
 - ・支援を必要とする県協会への具体的な対応(用具・手法等)
 - ・体験会の実施手法の見直し(スポンサー探し等)
 - ③教室・カルチャー教室の支援
 - ・本部教室の稼働率向上促進(プロジェクトチームによる立案と実施)
 - ・全国カルチャー教室の拡充と支援

2>教育部

1)活動方針

- (1)普及に対する公認指導員・上級公認指導員の位置づけを再考し、スポーツウエルネス吹矢の指導に必要な人材育成を図る。
- (2)資格認定試験・資格維持講習会の費用について見直し、県協会での実施体制の促進を図る。

2)活動内容

- (1)全国ブロック・県協会教育部とのきめ細かい情報共有と連携体制の確立
- (2)教育部関連会議における情報交換の推進
 - ①全国ブロック長会議を通じた指導員情報の共有化
 - ②県教育部長会議(ブロック教育部主催)による課題の顕在化と対応策検討
・全国ブロック長会議を受けて開催される県会長会議に合わせて実施し課題を顕在化するとともに組織局教育部との情報共有化を促進
 - ③首都圏教育部会議の開催(組織局教育部主催:1回/2か月)
・首都圏(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県)教育部役員出席
- (3)各種試験・講習会の主管
 - ①公認指導員資格認定試験(6月・11月)
 - ②上級公認指導員資格認定試験(6月・11月)
(上記試験の同時開催も可とする)
 - ③Aライセンス認定試験(8月・3月)の実施支援
 - ④ブロック単位・都道府県単位の公認指導員・上級公認指導員に対する講習会の指導
 - ⑤都道府県における地域限定指導員の講習会支援
- (4)全国ブロック・都道府県協会教育部の新役員に対する教育の実施
- (5)県協会・市協会で開催される講習会等の支援
- (6)資格認定試験及び講習会の見直しとマニュアルの作成及び改定。
- (7)各種資格認定試験・講習会の学科試験問題・審査基準の作成と改定及び講習会終了基準の見直し
- (8)スポーツウエルネス吹矢理論・技術向上に関する文献の作成

3>審判部

1)活動方針

- (1)全国審判体制の整備とともに、競技部及び関連部署との連携による審判技術の統一及び実務の充実
- (2)審判の質的向上と公認審判員の計画的な育成

2)活動内容

- (1)協会本部主催大会への対応体制の見直しとミスの撲滅
 - ①各大会への積極的な対応と審判業務の質的向上
 - ②次世代を意識した組織体制作りと業務の明確化

- ③審判ミスの要因分析及び対応策及び審判部での情報共有
- (2) 審判部組織体制の整備
 - ①未整備ブロック(甲信越・北海道)への審判部設置と全国情報管理システムの構築(情報交換及び課題と解決策の共有)
 - ②全国公認審判員数の適正化と人材育成
 - ・2回/年資格試験と定期任命(10月、4月)の計画的な実施
 - ・公認審判員としての意識向上教育(公平・公正な公認審判員育成)
 - ・全国審判部の活動状況と人員構成の継続的な把握と対応
 - ③公認審判員の業務明確化と技術の向上
 - ・大会別の審判業務範囲の明確化
 - ・審判規則・競技規則の知識習得促進
 - ・審判技術に関するQ&Aの作成と公認審判員教育への適用(他の競技団体の規則も参考のうえ整備)
 - ④審判規則及びマニュアルの見直し
 - ・現状の問題点の検証と修正(大会参加回数、年次講習、更新講習他)
 - ・規程、規約及び審判マニュアルの常時見直しと改定

4> 競技部

1) 活動方針

- (1) コロナ禍における新しい競技方法・運営方法について見直し、海外支部を含む全会員が参加し易く「夢」を持てるテレ大会・オンライン大会等、新しい企画を促進する。
- (2) 新しい企画として「遠矢の級段位認定」「フィールドスポーツウエルネス吹矢」等について導入を検討する。

2) 活動内容

- 目的と位置付けを明確にしたうえで以下の全国大会を企画・運営する。
(日程については2>>大会及び競技会日程を参照)
- (1) スポーツウエルネス吹矢国際オープンテレ大会
海外支部を含め各支部練習会場での競技をネット集計により順位を決定
 - (2) 全日本スポーツウエルネス吹矢選手権大会
各ブロック、都道府県協会より代表選手を選出して東京会場にて開催
 - (3) スポーツウエルネス吹矢青柳杯大会
スポーツウエルネス吹矢の創始者の名前を冠して、三段位以上の上級者により開催する、東京会場にて開催
 - (4) 全国スポーツウエルネス吹矢オープン大会
会員であれば参加枠内で自由に参加可として東京会場にて開催

(5) オンライン大会の試行

- ①東京会場をメインとして全国の複数会場をネットワークで繋ぎ、全国の会員が参加し易い大会形式の企画
- ②Know How 取得のため遠隔地の支部をネットで繋ぎ支部対抗オンライン競技会を試行

5>障がい者サポート部

1)活動方針

スポーツウエルネス吹矢が全国障害者スポーツ大会(国体)の正式種目に採用されることを目標に全国への普及、拡大を促進する。

2)活動内容

- (1)国体開催予定県に対するオープン競技への参加促進
 - ・三重とこわか国体(10月24日)
- (2)ブロック・県協会への障がい者サポート部設置の促進による全国体制の整備
 - ①障がい者サポート公認指導員資格認定試験及び3年次資格更新講習が可能なブロック・県協会体制作り(県協会障がい者サポート部長・副部長に対する講習指導の促進)
 - ②障がい者会員在籍数に応じ、重点的にブロック・県協会組織の整備
 - ③協会本部と各ブロック・県協会障がい者サポート部との情報交換網の構築
- (3)「都道府県障がい者スポーツ協会」へのブロック・県協会の加盟促進
- (4)都道府県協会に於ける障がい者スポーツウエルネス吹矢大会開催の要請(健全者大会との同時実施も含めて促進)
- (5)障がい者スポーツウエルネス吹矢大会への審判部、競技部連携体制定着
- (6)主な行事予定
 - ①フレイル予防講座:10月12日(火) 於本部(健康長寿センター:河合博士)
 - ②障がい者サポート公認指導員資格認定試験:7月3日(、2022年2月5日 於本部)
 - ③第13回全国障がい者スポーツウエルネス吹矢大会の企画・運営(9月16日)
 - ④障がい者サポート公認指導員ブロック別役員講習会(東海、近畿、中国、四国ブロック他)
 - ⑤公益事業体験会の計画立案と実施

6>ジュニア育成部

1)活動方針

ジュニア会員の在籍数に応じたブロック・県協会ジュニア育成部の設置と情報交換体制の整備により会員増を図る。

2)活動内容

- (1)ジュニア育成に意欲的な会員の発掘による体制の整備。

- (2) 第12回全国スポーツウエルネス吹矢ジュニア大会開催(「楽しさ」を主眼に)
- (3) ジュニア記録会の継続開催
- (4) 学校教育への参入計画立案
 - ① 学校の体育館活用による体験教室併催型競技会・交流大会の開催
 - ② 体験会の積極的な企画立案による学校教育への参入
- (5) 公認指導員及び上級公認指導員の資格更新講習会に提供できるジュニアの指導要領資料の作成

7> 国際団体設立準備室

1) 活動方針

- (1) 将来の国際スポーツウエルネス吹矢連盟(仮称)実現のため海外支部の拡充
- (2) 国際団体設立時に必要な諸規定の整備
- (3) 諸規定集の重要改定事項を英訳し海外支部へ通達
- (4) コロナ禍における海外支部への活動支援方法の立案

2) 活動内容

- (1) メキシコ・ポーランド(現会員5名)については現在のコロナ禍の収束次第、現地指導とともに正式承認を進める。
- (2) 英文定款についてニュージーランド総支部長の協力を得て最終完成版とする。内容的には加盟条件、理事国、総会、理事会等の構成につき重点的に推敲を重ねる。
- (3) 諸規定集の重要変更事項を英訳して海外支部に対し継続して通達する。
- (4) 新型コロナ感染状況下における海外支部練習のサポートを継続して行う。(イマイ提言、飛沫感染状況実験の英訳等、現地からも効果的との評価あり)
- (5) 広報室との連携によりHPへの英文欄の充実を継続する。
- (6) カタログの英訳を含め、海外支部員への効果的な情報発信に努める。

8> 広報室

1) 活動方針

- (1) 海外を含め多世代へ向けた「スポーツウエルネス吹矢」知名度の向上
- (2) 国民的スポーツ行事を通じ「生涯スポーツ」としての継続的な広報活動
- (3) 会員サービスに繋がる的確な広報資料の提供
 - ・特に初心者、初級クラスの定着を意図した資料構成を企画

2) 活動内容

- (1) 会報の定例発行
 - ・年6回(隔月発行・不定期での別刷り版)の会報継続発行
 - ・新企画の投入を含め、状況に応じた内容充実のため紙面は随時見直し
- (2) ホームページの充実と公式SNS(フェイスブック/ツイッター/YouTube/LINE)のタイムリーな情報発信と内容の強化

- ・「理事長室(仮称)ブログ」の新規立ち上げ
- (3) 会員向け情報共有ツールの発行
 - ・特に初心者、初級クラスの定着を意図した手引書(ガイドブック)の企画・製本化
- (4) 普及促進ツールの適宜見直しによる活用拡大
 - ・普及活動の一助となる効果的なツール作成と内容の更新
- (5) 行政・加盟団体・学校への定期的な情報提供
- (6) スポーツウェルネス吹矢の支援に協力的な個人・企業・団体の開拓

10>組織管理部

1)活動方針

会員との接点にある部署として要望の把握と迅速な対応を心掛け、精度の高い会員管理システムの構築と情報提供部署としての体制を確立する。

2)活動内容

- (1) 会員の視点から業務フローを見直し、継続的にツールの改良を推進
- (2) 県協会のみでなく支部、指導員への情報提供体制の確立
- (3) 各種データの分析・情報共有
 - ・コロナ禍における活動事例、普及成功事例の収集と報告
 - ・退会事例の分析による普及活動への提言
- (4) 会員・公認指導員情報の管理
 - ・支部～ブロックにおける各種データの管理と提供
- (5) 普及促進及び退会者削減策の立案

11>総務部

1)活動方針

一般社団法人（非営利）としての基本的な運営基盤である総務及び経理業務を正確に実施するとともに他部署への支援を進める。

2)活動内容

- (1) 理事会・社員総会の確実な計画と開催
- (2) 適正な会計処理並びに予算編成及び決算処理の実施
- (3) コロナ禍における予実算管理と迅速な対応策の策定
- (4) 規定の改定に伴う規定集及び運営マニュアル集改訂版の作成と配付
- (5) 教室を含めた本部施設の適切な運営業務の促進

以上